

第4章 将来目標

4-1 将来都市像

(1) 将来像

1) 五條市の特性

将来像を考える上で、本市の特性は次のことがあげられます。

- 〔位置〕 県の南西部、大阪府・和歌山県との接点に位置し、京奈和自動車道、五條新宮道路、東海南海連絡道がクロスする広域交通の要衝のまち。
- 〔歴史〕 五街道が集まる交通の要衝、五條新町地区など、古代、南北朝時代からの史跡など数多くの歴史的資源が豊富。
- 〔自然〕 吉野川、河岸段丘、山岳地帯など豊かな自然が豊富。
- 〔人口〕 南和地域の中で最大規模の人口を有しているが、人口減少、少子高齢化の進行。
- 〔産業〕 柿の栽培（生産量市町村単位日本一）、木材・木製品、食料品製造業、プラスチック製品製造業が主要産業。五條市林産物加工施設で木質バイオマス利用の取り組み。
- 〔土地利用〕 行政面積の約8割が農地・山林。市街化区域に都市機能がコンパクトに集積。
- 〔都市施設〕 京奈和自動車道は本市区間が暫定供用。国道24号他4路線が骨格を形成。
 鉄道はJR和歌山線の3駅。バスは、奈良交通と五條市コミュニティバス・デマンド型乗合タクシーが各地域に運行。
 行政施設は五條地区に集積。市役所は令和3年秋開庁。西吉野地区、大塔地区に支所。
 都市公園は上野公園など165箇所、開設面積は116.23ha。

2) 「五條市ビジョン」が定める将来像

上位計画となる「五條市ビジョン」において、5つの基本理念と将来像を次のように定めています。

【基本理念】

- 第一條： 子どもを育てたいまちをつくる
- 第二條： 安心して定住できるまちをつくる
- 第三條： 地域資源を活かした産業のまちをつくる
- 第四條： 南部地域の交流拠点となるまちをつくる
- 第五條： すべての人が社会参加するまちをつくる

【将来像】

「五條」ひと・
みちが交わり、
新たな価値が生まれるまち

3) 市民アンケート調査・高校生意識調査の結果概要

市民アンケート調査結果において、次の“めざすべき将来の都市像”が上位を占めています。

- 第1位：「子どもから高齢者までが安心できる保健・福祉が充実した都市」
- 第2位：「自然が豊かな田園環境に恵まれた都市」
- 第3位：「安心安全で快適な住宅を中心とした都市」
- 第4位：「自然や歴史、伝統産業を生かした観光都市」
- 第5位：「にぎわいのある商工業が発展した都市」

4) 本計画の将来都市像

将来都市像は、都市整備上の課題や五條市ビジョン等の上位計画における基本理念と将来像、市民アンケート調査において示された望まれる将来像を踏まえて設定します。

本市は、夕日や吉野川の眺望、蛍が舞い、蛙が飛び込む川辺などの清流と緑豊かな自然に恵まれ、また重要伝統的建造物群保存地区に選定された五條新町地区や五新鉄道建設跡などの歴史資源を有しています。これらの恵まれた自然や心とむ風土を守る「五條らしさ」を共有して人と人との絆を大切に育てる都市づくりが求められています。

また、安全で安心できる都市環境の確保を図るとともに環境負荷の低減に配慮し、子どもから高齢者までの誰もが心豊かに健やかに暮らせる持続可能な都市構造づくりが求められています。

さらに、自然・歴史を生かした観光などの産業の活性化とともに南和地域の中心都市機能の集積を図り、“交流拠点”となる都市づくりをめざします。

このような都市像として本市の将来像は、五條市ビジョンの将来都市像と整合を図り、

次のように定めます。

【将来都市像】**「五條」ひと・みちが交わり、新たな価値が生まれるまち****(2) 将来人口フレーム**

本市における将来人口は、国の長期ビジョンを勘案しつつ、本市の現状を踏まえた「五條市ビジョン」に従い、次の通り設定します。

【計画期間目標】 令和 12 (2030) 年の将来目標人口 おおむね 24,500 人

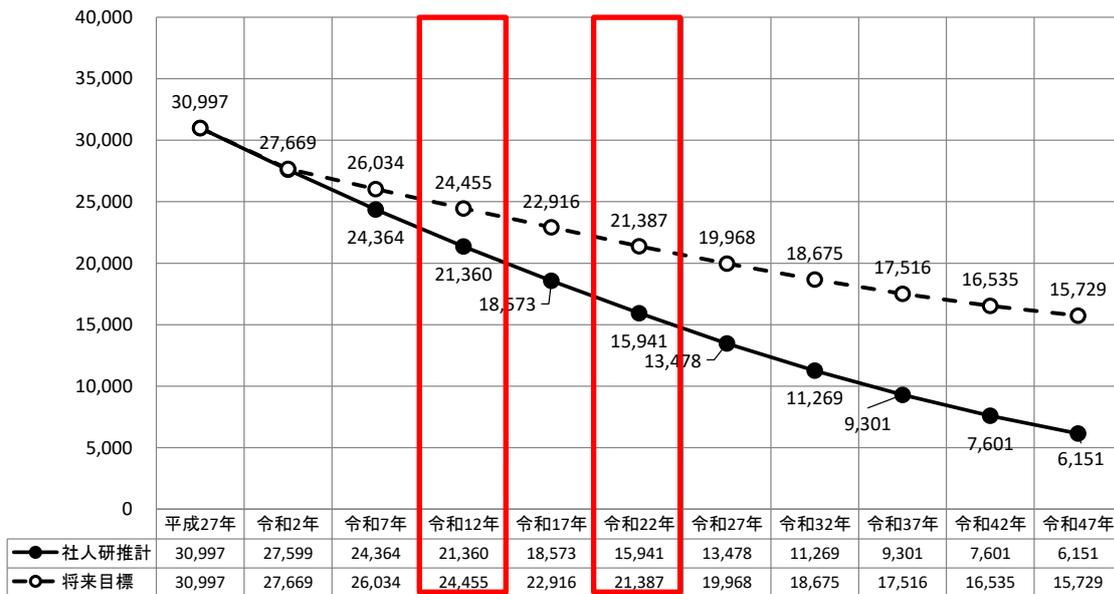
【長期目標】 令和 22 (2040) 年の将来目標人口 おおむね 21,400 人

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」では、本市の人口は、令和12年で約21,400人(約9,600人の減少、約70%の人口規模)、令和22年で約15,900人(約15,100人の減少、約50%の人口規模)まで減少すると推計されています。「五條市ビジョン」では、人口増加施策の実施により、人口減少を上記のように抑制することとしています。

この人口目標を達成するには、就業場所の拡充や良好な住宅地の供給、及び利便性の高い交通手段の充実などにより転出数の減少や将来人口の目標として社会動態を横ばい又は減少傾向を抑制することをめざします。

また、この目標は、現況人口約31,000人(平成27年)に対して、令和12年で約24,500人(約6,500人の減少、約80%の人口規模)、令和22年で約21,400人(約9,600人の減少、約70%の人口規模)となるため、持続可能な、より集約化した都市構造をめざします。

■人口目標設定図



出典：

（社人研推計）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）」

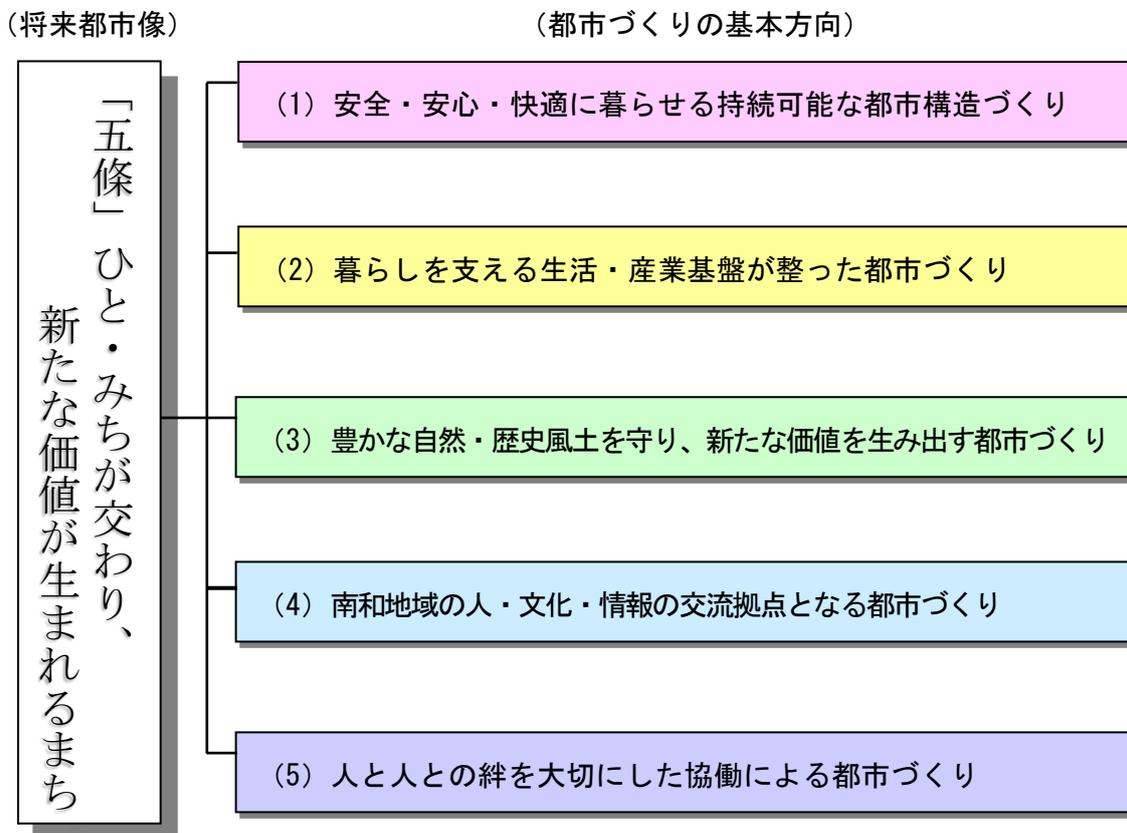
（将来目標人口）総務省「国勢調査」をベースに上述の仮定値を用いて推計

■人口目標設定の考え方

合計特殊出生率	<p>若い世代の希望をかなえ、人口減少を克服するため、令和42年時点の合計特殊出生率の目標値は国の長期ビジョンに示す人口置換水準（2.07）としつつ、本市の合計特殊出生率は全国平均、県平均より低い水準であることから、令和42年までの間は、県の仮定値の考え方を参考に、現状の出生率をベースに5年間で0.1ずつ上昇させるよう段階的に改善を図る。</p> <p>具体的には、令和2年には1.31程度、令和22年には1.71程度、令和42年には2.07程度まで合計特殊出生率を上昇させることをめざす。</p>
純移動率	<p>社会増減の傾向と課題を踏まえ、特に若年層の転出抑制や市外からの転入促進を進め、令和7年までに純移動を均衡（ゼロ）させることをめざす。さらに、長期的には本市の根本的な課題である公共交通による都心部との交通利便性改善や、市内及び市外の買い物客が訪れる商業施設の誘致・整備等に取り組み、社会増をめざす。</p>

4-2 都市づくりの基本方向

将来都市像の実現をめざし、市民意向や本市の都市づくりの主要課題を踏まえて、都市づくりの基本方向を次のように設定します。



(1) 安全・安心・快適に暮らせる持続可能な都市構造づくり

中心地や生活拠点において都市機能を集約するとともに周辺地域との公共交通ネットワークを充実し、集約型の都市構造をめざします。また、各拠点の役割分担や連携により各拠点の機能が発揮できる拠点連結型の都市構造づくりをめざします。

住宅・事業所や主要公共建築物などの不燃化・耐震化の促進と、大規模な土砂災害に対する経験や調査、研究を踏まえ、豪雨や地震を要因とする水害・土砂災害等の自然災害や事故による人為的な災害も予想され、危険回避や避難対策、被害の拡大防止等が重要です。そのため「災害の発生しにくいまちづくり」、「被害を最小限に抑えるまちづくり」の要素を併せ持つ都市構造づくりをめざします。

さらに、将来の人口減少を踏まえ、高齢者や障がい者を含めて誰もが安全に安心して、快適に暮らせる持続可能な都市構造づくりをめざします。

(2) 暮らしを支える生活・産業基盤が整った都市づくり

少子高齢化を踏まえ、子育て支援から充実した高齢者福祉などにより、誰もが健やかに暮らせる居住環境や医療・福祉環境を充実するとともに、道路、下水道、公共交通等の整備、市民生活や産業活動の基盤が整った都市づくりをめざします。

また、魅力ある商業施設や個性がある工業施設等の充実とともに、地域資源を生かし

た特産品や新鮮な農作物づくり、地域交流を生かした産業誘致により、多様な就業の場を設ける都市づくりをめざします。

(3) 豊かな自然・歴史風土を守り、新たな価値を生み出す都市づくり

夕日や吉野川などの眺望、蛍、蛙、川遊びなどの吉野川に代表される身近な清流や、大峯山系の山々に代表される豊かな自然、また、五條新町地区や世界遺産である古道、五新鉄道建設跡などの歴史的資源など、これまでに培ってきた地域の自然・歴史・文化の風土を守り育てます。

また、これらの豊かな資源を有効活用し、新たな価値を生み出す個性を育む都市づくりをめざします。

(4) 南和地域の人・文化・情報の交流拠点となる都市づくり

京奈和自動車道の暫定供用により関西国際空港から約1時間で行き来出来るようになり、企業誘致に伴う雇用の促進や観光客の増加が予想されます。また今後、京奈和自動車道の全線開通や地域高規格道路（五條新宮道路）の整備等により奈良・京都の世界遺産への観光客の増加が見込まれ、市内にある世界遺産（大峯奥駈道）への観光客も増加が予想され益々南和地域の窓口的な役割が期待されます。このことを見据え、南和地域で最大の人口規模、都市機能を生かし、広域連携と各種都市機能のより一層の集積を進めるとともに、豊かな自然・歴史資源を生かした人・文化・情報の交流拠点となる都市づくりをめざします。

(5) 人と人との絆を大切にした協働による都市づくり

市民が五條らしさを共有して人と人の絆を大切に育てるとともに、市民や事業者、各種団体が都市づくりに参加できる機会を増やし、「ここに来てよかった」、「また訪れたい」という心のこもった「おもてなし」で観光客との交流を深めることによりリピーターの増加をめざします。そのためには、五條の風土を生かした里山、田園、まちの環境の保全や維持管理など、都市づくりの多様な場において民間や市民と行政との協働による都市づくりをめざします。

4-3 将来都市構造

本市の将来都市構造は、都市機能の集積をめざす「拠点」、道路等を中心に都市活動を支える「連携軸」、及び市街地などの土地利用の集団的な空間の形成をめざす「ゾーン」により構成し、以下のように設定します。

(1) 拠点の整備方向

1) 中心都市拠点

JR 五条駅周辺を中心都市拠点に位置づけ、文化、福祉、商業・業務、行政、交通結節などの都市機能の集積を促進し、本市のみならず、南和地域全体の拠点として複合的な都市機能の充実を図ります。

2) 都市拠点

中心都市拠点を補完する都市拠点として、五條病院・保健福祉センター周辺を都市拠点に位置づけ、医療・福祉機能の集積を図ります。同様に、JR 大和二見駅周辺を都市拠点として位置付け、来訪者の周遊を促進するとともに地域の居住者の利便性を高める様に商業機能等の充実を図ります。

3) 地域拠点

西吉野、大塔の地域における行政機能や文化交流施設が中心となる西吉野支所周辺と大塔支所周辺を地域拠点に位置づけ、地域における行政サービスや文化交流の拠点として充実を図ります。

4) 地域コミュニティ拠点

JR 北宇智駅周辺、田園3丁目・4丁目の既存商業地、西吉野支所周辺、大塔支所周辺を中心とする地域などを地域コミュニティ拠点に位置づけ、中心都市拠点や都市拠点、地域拠点との役割分担と連携により、各生活圏における地域コミュニティ機能や商業サービス機能の集積を促進し、各地域の生活拠点として充実を図ります。

5) 産業拠点

テクノパーク・なら工業団地周辺（インテリジェンス用地五條・五條木材工業団地含む）、南大和テクノタウンや西吉野地域において果樹栽培の研究・振興や山林を活用した林業振興の中心的役割を担う地域を産業拠点に位置づけ、産業の振興や誘致、特産物の開発や観光農業の取組などにより、産業の育成と就業場所の拡充を図ります。

6) 観光交流拠点

自然、歴史、自然的資源を生かした観光地を形成している地域や五條新町地区、榮山寺周辺を観光交流拠点に位置づけ、観光用施設、情報発信機能の充実や拠点間の連携を促進し、観光交流活動の活性化を図ります。

また、京奈和自動車道五條インターチェンジ周辺に、新たな商業、産業と連携した観光交流拠点を位置づけ形成を図ります。

7) 大規模広域防災拠点（計画）

県では南海トラフ巨大地震に備え、「2,000m級滑走路を有する大規模広域防災拠点」の設置を本市において計画していることから、防災体制を拡充・強化するため、大規模広域防災拠点（計画）と位置づけ、県と緊密に連携しながら整備を図ります。

(2) 連携軸の形成方向

1) 広域連携軸

京奈和自動車道、国道24号、168号、310号、370号の府県界を超えた広域的な交通・物流・交流に資する動線軸を広域連携軸と位置づけ、人・文化・情報の広域連携を図ります。

2) 地域連携軸

隣接都市や市内各地と連絡している主要地方道等の市界を超えた各地域との交通・交流に資する動線軸を地域連携軸と位置づけ、交通・交流の地域連携を図ります。

3) 自然・歴史連携軸

本市の歴史は、古くは神代より清流吉野川沿いに築かれました。この吉野川と共に発展してきた五條新町地区や紀州街道・伊勢街道沿い、吉野熊野国立公園、世界遺産である「大峯奥駈道※1」等を自然・歴史連携軸に位置付け、周辺の自然や歴史資源を連携させ、観光資源を活用した地域の賑わいの創出を図ります。

※1 令和2年度に大塔地区から明星ヶ岳まで登山道の整備を行い、アプローチしやすくなった。

(3) ゾーンの整備方向

1) 市街化区域ゾーン

市街化区域を一定の人口・都市機能が集積するゾーンに位置づけ、居住、商業・業務、教育、文化、医療、福祉、工業など、「五條市立地適正化計画」に基づき本市の都市機能が適正に配置されたゾーンの形成を図ります。

2) 市街化調整区域ゾーン

農林業の振興を基本とし、農林業との調和を図りつつ集落地等の地域コミュニティの活力の保持や地域産業の活性化を図ります。

金剛生駒紀泉国定公園については、森林の保全と自然環境を生かしたレクリエーションの場として活用を図ります。

3) 都市計画区域外ゾーン

都市計画区域外の山間地を都市計画区域外ゾーンとし、豊かな山林と清流を保全するとともに、林業振興や消防・救急、学校教育環境の充実により集落地等の生活環境の向上を図ります。また、吉野熊野国立公園で世界遺産の「大峯奥駈道」等を生かした交流の促進を図り、地域の活性化を図ります。

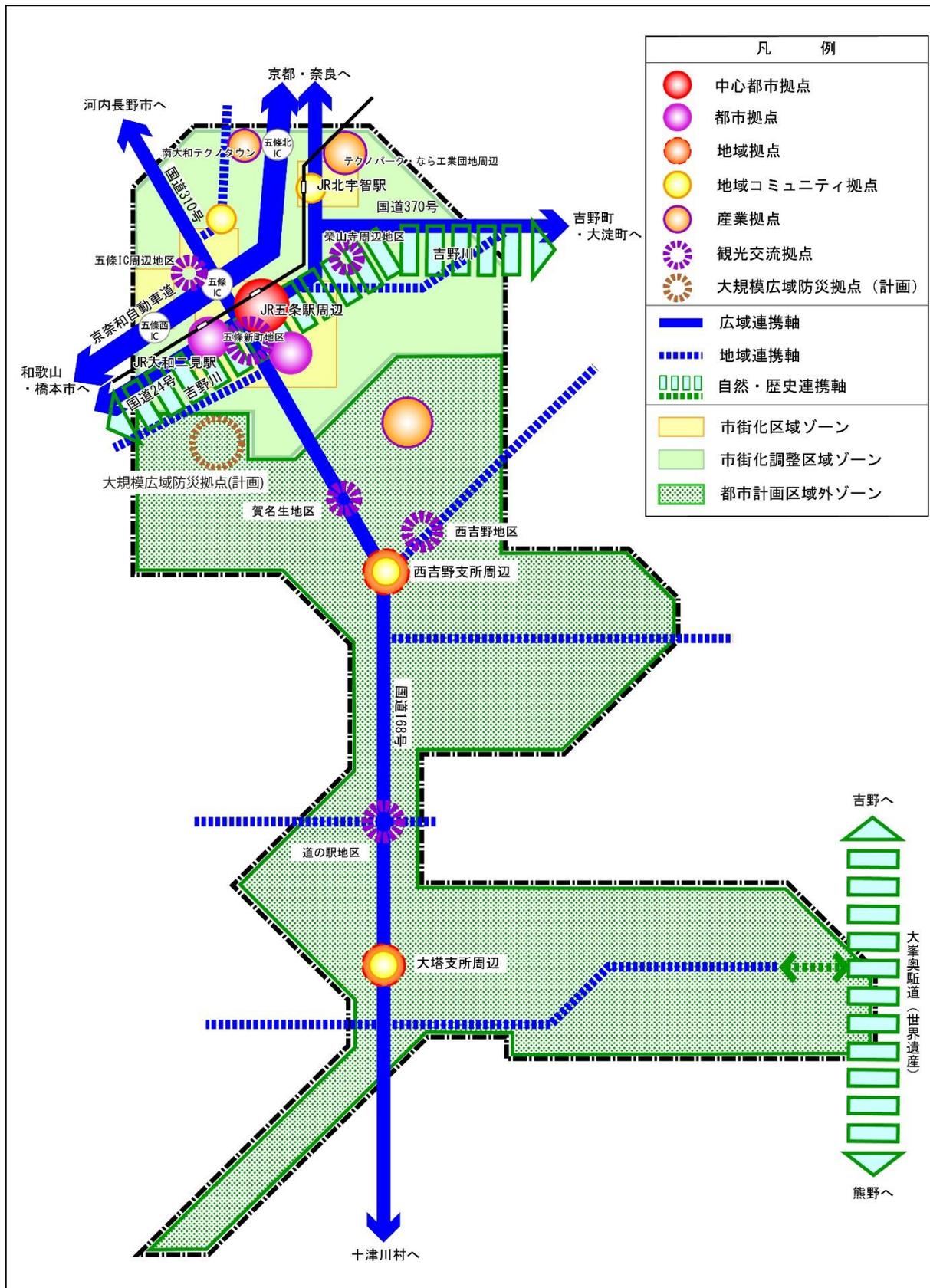


図 4-1 将来都市構造図